


令和3年度 シラバス 音楽 I

科目名	音楽 I	単位数	2	検 校 長 教 頭 印
教科書	MOUSA1 (教育芸術社)			
対象学年	1 学年	担当教諭	長嶺 真末 	

1. 学習のねらい

- ・音楽の諸活動を通して音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、鑑賞する能力と個性豊かな表現能力を伸ばし、音楽についての理解を深める。

2. 目標

- ・歌唱や器楽の活動を通して、基礎的な奏法を身に付け、表現することができる。
- ・多様な音楽を鑑賞することで、音楽への興味関心を持ち、それらの豊かさや美しさを感じることができる。
- ・楽曲の文化的・歴史的な背景を知ること、音楽をより深く理解することができる。
- ・郷土の文化・音楽に触れることで、独自のアイデンティティを育てる。
- ・即興演奏や創作活動などを通して、自分らしく自由に表現できるようになる。

3. 副教材について

教科書に関連する資料や楽譜、視聴覚教材

4. 授業の内容と進め方

毎時の読譜テストで基礎力を身につける。授業では、表現活動（歌唱・器楽・創作）と鑑賞活動とを平行して進める。また、達成したことや感じたことを振り返る時間を設定する。

5. 学習する上での留意点

生徒が安心して表現できるような雰囲気づくりに努める。また、少人数の授業なので、一人一人への声かけを細かく行う。毎時間真剣に、また楽しみながら授業に取り組ませていきたい。

6. 評価観点

- ・音楽に対する興味や関心、授業に積極的に参加する姿勢を評価する。
- ・4つの観点をバランスよく有機的に評価する。

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
<ul style="list-style-type: none"> ・ジャンルを問わず、多様な音楽に興味関心が持てる。 ・アンサンブル演奏に意欲的に取り組むと共に、友人達との共演に積極的であるか。 ・授業中、集中力をもって積極的に参加できるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽が生み出す曲想や美しさを感じ取り、さらに自分の演奏に表現の工夫をしているか。 ・演奏上の課題に直面したときに、的確な解決方法を見いだす工夫があるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽曲から感じ取ったイメージを自分らしく表現する技能をもっているか。 ・楽譜や、楽譜に記されている音楽表記を理解し、それらが示す曲想を感じ取り、表現することができるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽のジャンル、使用楽器、演奏法を理解して聞くことができるか。 ・楽曲の背景をより深く理解し、情景を想像しながら集中して鑑賞することができるか。


7. 評価の方法

- ・勤怠状況
- ・平常点（課題・提出物・学習意欲
- ・考査等（小テスト・実技テスト・発表）

学期	月	題材名・単位名	教材	学習のねらい及び評価
1 学 期	4 ～ 7	オリエンテーション 楽しく歌おう（歌唱） ※1 郷土の音楽に触れる 三線を弾こう！ 【まとめ】	○校歌 ○琉球古典音楽 ○沖縄民謡（安里屋ユンタ） ○沖縄ポップス プリント学習 簡単な練習曲 プリント学習	・授業に対する心構えを確認し、高校生の自覚を持たせる。 ・新しい級友と楽しく歌う。正しい姿勢で発声する事を学ぶ。 ・校歌を覚え、校歌の内容と背景を深く理解しながら歌う。 ・沖縄音楽史を通して、琉球古典音楽、沖縄民謡、沖縄ポップスのそれぞれの音楽的特徴と歴史的発展を学ぶ。 ・安里屋ユンタの歴史的背景、音楽的特徴を学ぶ。 ・工工四の読み方、三線の持ち方、歌三線を学ぶ。 ・音階（日本音階、琉球音階）、拍子、リズムなどを理解する。 沖縄の音楽・三線について 【楽典のテスト・実技テスト】
	9	鑑賞 世界の音楽 日本の民謡に触れる	「オススメの一曲」 ○アフリカの民謡 ○アジアの民謡 ○ヨーロッパの民謡 ○ソーラン節	・一人ずつ自分の好きな歌（曲）（ジャンルは問わない）を選び、それについて発表し、みんなで鑑賞し、曲について話し合う。 （発表者：発表と課題提出、その他の生徒：鑑賞ノート提出） ・世界の民謡にふれ、独自の音楽文化を理解する。 ・多様な民謡を国別に分け、比較し、特徴をまとめる。 ・民謡の特徴や日本の心を感じ取る。
2 学 期	10 ～ 12	鍵盤楽器に親しむ （器楽・鑑賞） 楽典 【まとめ】	プリント学習 ○簡単な練習曲 ○ピアノ名曲集（ショパン等） 音符やリズムについて ○プリント学習	・鍵盤楽器を弾くにあたり、基本的な演奏方法、指使い、楽譜の読み方などを学ぶ。（キーボード演習導入）ステップアップ方式で個々のレベル・習熟度に合わせてすすめていく。 ・鍵盤楽器の発展の歴史学び、また様々な鍵盤楽器の楽曲（ピアノ、オルガン、チェンバロ、アコーディオン等）を鑑賞し、種類や音色の違いを学ぶ。 ・演奏者のレベルに合わせて、片手ずつ練習し両手で合わせて弾いてみる。 ・メロディーやフレーズ感を把握して弾けるようにする。 ・楽典の基礎学習 【楽典のテスト・実技テスト】
	1～ 3	外国語の歌を歌おう ※1 西洋音楽を鑑賞する 卒業の歌 楽典 【まとめ】 コンサートを開こう	○カロ・ミオペン ○野ばら ○オペラアリア 「だれも寝てはならぬ」 ○卒業の歌（3年選曲） プリント学習	・イタリア語とドイツ語の歌を歌い、日本語とは違う発音や歌詞、曲想に触れ、二種類の「野ばら」を音楽的表現や楽曲の違いなどを比較する。 ・歌曲と異なる曲想をもつ、イタリアオペラのアリアを鑑賞。 ・音楽と演劇が融合した「総合芸術」としてのオペラに触れる。 ・卒業式に向けて、校歌と卒業式の歌の練習に入る。 ・この一年間で練習した器楽曲、アンサンブル曲、合唱曲から曲を選び、練習し、発表する。コンサートを開く際に必要な、プログラム作成、選曲、曲順決めなどの準備過程を学ぶ。
3 学 期	1～ 3	外国語の歌を歌おう ※1 西洋音楽を鑑賞する 卒業の歌 楽典 【まとめ】 コンサートを開こう	○カロ・ミオペン ○野ばら ○オペラアリア 「だれも寝てはならぬ」 ○卒業の歌（3年選曲） プリント学習	・イタリア語とドイツ語の歌を歌い、日本語とは違う発音や歌詞、曲想に触れ、二種類の「野ばら」を音楽的表現や楽曲の違いなどを比較する。 ・歌曲と異なる曲想をもつ、イタリアオペラのアリアを鑑賞。 ・音楽と演劇が融合した「総合芸術」としてのオペラに触れる。 ・卒業式に向けて、校歌と卒業式の歌の練習に入る。 ・この一年間で練習した器楽曲、アンサンブル曲、合唱曲から曲を選び、練習し、発表する。コンサートを開く際に必要な、プログラム作成、選曲、曲順決めなどの準備過程を学ぶ。

※新型コロナ感染症対策を十分に行いながら実施する

令和3年度 シラバス 保育と音楽

科目名	保育と音楽	単位数	2	検 校 長 教 頭
教科書	プリント学習			
対象学年	2 学 年	担当教諭	長嶺 真未 	

1. 学習のねらい

保育と音楽に関する学習を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、専門的な音楽に関する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

2. 目標

- (1) 音楽を形づくっている要素の働きやその効果などに関する思考力、判断力、表現力等を育成する。
- (2) 音楽性豊かな表現をするための基礎となる学習を大切にすることを養う。
- (3) 子どもの遊び歌・わらべ歌・身体表現・創作を通して、子どもと音楽を楽しむための「音楽表現の引出し」を増やし、基礎的な援助(選曲、提示の方法など)を学ぶ。
- (4) 全国高等学校家庭科保育技術検定 音楽リズム表現1～4級取得に必要な知識や技術を身につける。

3. 副教材について

教科書に関連する資料や楽譜、視聴覚教材

4. 授業の内容と進め方

毎時の読譜テストで基礎力を身につける。授業では、表現活動(歌唱・器楽・創作)と鑑賞活動とを平行して進める。また、達成したことや感じたことを振り返る時間を設定する。

5. 学習する上での留意点

生徒が安心して表現できるような雰囲気づくりに努める。また、少人数の授業なので、一人一人への声かけを細かく行う。毎時間真剣に、また楽しみながら授業に取り組ませていきたい。

6. 評価観点

- ・音楽に対する興味や関心、授業に積極的に参加する姿勢を評価する。
- ・4つの観点をバランスよく有機的に評価する。

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
<ul style="list-style-type: none"> ・ジャンルを問わず、多様な音楽に興味関心が持てる。 ・アンサンブル演奏に意欲的に取り組むと共に、友人達との共演に積極的であるか。 ・授業中、集中力をもって積極的に参加できるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽が生み出す曲想や美しさを感じ取り、さらに自分の演奏に表現の工夫をしているか。 ・演奏上の課題に直面したときに、的確な解決方法を見いだす工夫があるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽曲から感じ取ったイメージを自分らしく表現する技能をもっているか。 ・楽譜や、楽譜に記されている音楽表記を理解し、それらが示す曲想を感じ取り、表現することができるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽のジャンル、使用楽器、演奏法を理解して聞くことができるか。 ・楽曲の背景をより深く理解し、情景を想像しながら集中して鑑賞することができるか。


7. 評価の方法

- ・勤怠状況
- ・平常点(課題・提出物・学習意欲)
- ・考査等(小テスト・実技テスト・発表)

学期	月	題材名・単位名	教材	学習のねらい及び評価
1 学 期	4 ～ 7	保育技術検定音楽リズム表現 について(1)1～4級の内容 と目的について	○プリント	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に対する心構えと、音楽性豊かな表現をするための基礎となる学習を大切にす る態度について確認する。 ・楽典の基礎学習 ・正しい姿勢で発声する事を学ぶ。 ・歌詞の内容と背景を深く理解しながら歌 う。 ・鍵盤楽器を弾くにあたり、基本的な演奏 方法、指使い、楽譜の読み方などを学ぶ。(キ ーボード演習導入) ステップアップ方式で 個々のレベル・習熟度に合わせてすすめて いく。 ・演奏者のレベルに合わせて、片手ずつ練 習し両手で合わせて弾いてみる。
		楽典①音符と音名	○プリント	
		生活や遊びの中での音楽表現 (1) ふしづくり (2) 童歌 (3) ボディパーカッション	「やまのおんがくか」「こぎつね」「チュ ーリップ」 「かたつむり」「ちょうちょう」「どんぐ りころころ」「メリーさんのひつじ」「て をたたきましょう」など	
		ピアノ演奏の基礎を身につけ る I	○プリント ○バイエルピアノ教則本N○30～47	
2 学 期	9	楽器遊びを中心とした音楽表 現活動	○プリント 鈴・タンバリン・カスタネット・シンバ ル・トライアングル・ ハーモニカ・オルガン・ピアノなど	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な楽器を活用して音楽表現について、 話し合いながら深めていく。 ・身近にある素材(紙やペットボトル)を 使って楽器を作り、実際に演奏を行う。
		音遊びを中心とした音楽活動 (1) 楽器を手作りしてみよう (2) 手作り楽器で演奏してみ よう	○プリント	
	10 ～	身体の動きを伴った音楽表現 活動	○プリント	<ul style="list-style-type: none"> ・演奏者のレベルに合わせて、片手ずつ練 習し両手で合わせて弾いてみる。 ・メロディーやフレーズ感を把握して弾け るようにする。
	12	(1) 伝承童歌あそびの実践 (2) 身体を楽器にボディパー カッション ピアノ演奏の基礎を身につけ る II 楽典②音階と音程	「かごめかごめ」「ずいずいすっころぼ し」「はないちもんめ」など ○プリント バイエルピアノ教則本N○48～78程度	
3 学 期	1～ 3	ピアノ演奏の基礎を身につけ る	バイエルピアノ教則本N○79～104	<ul style="list-style-type: none"> ・演奏者のレベルに合わせて、片手ずつ練 習し両手で合わせて弾いてみる。 ・メロディーやフレーズ感を把握して弾け るようにする。
		童謡の弾き歌い まとめ	「せんろはつづくよどこまでも」「おか あさん」「さっちゃん」「おなかのへるう た」「もりのくまさん」など	

※新型コロナウイルス感染症対策を十分に行いながら実施する

令和3年度 シラバス 器楽 I

科目名	器楽 I	単位数	2	検 校 長 教 頭
教科書	プリント学習			
対象学年	2 学 年	担当教諭	長嶺 真未 	

1. 学習のねらい

- ・音楽の諸活動を通して生涯にわたり音楽を愛好する心情を育て、鑑賞能力を高めながら、音楽文化をより深く理解できるとともに、感性を磨き、個性豊かな表現能力を伸ばす。

2. 目標

- ・多様な音楽を鑑賞することで、音楽や音、楽器に対する興味関心を高める。
- ・楽曲の文化的・歴史的な背景を知ること、音楽をより深く理解することができる。
- ・郷土の文化・音楽に触れることで、独自のアイデンティティーを育てる。
- ・親しみのある童謡に簡単な伴奏付けができ、弾き語りができるようになる。

3. 副教材について

教科書に関連する資料や楽譜、視聴覚教材

4. 授業の内容と進め方

毎時の読譜テストで基礎力を身につける。授業では、表現活動（歌唱・器楽・創作）と鑑賞活動とを平行して進める。また、達成したことや感じたことを振り返る時間を設定する。

5. 学習する上での留意点

生徒が安心して表現できるような雰囲気づくりに努める。また、少人数の授業なので、一人一人への声かけを細かく行う。毎時間真剣に、また楽しみながら授業に取り組ませていきたい。

6. 評価観点

- ・音楽に対する興味や関心、授業に積極的に参加する姿勢を評価する。
- ・4つの観点をバランスよく有機的に評価する。

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
<ul style="list-style-type: none"> ・ジャンルを問わず、多様な音楽に興味関心が持てる。 ・アンサンブル演奏に意欲的に取り組むと共に、友人達との共演に積極的であるか。 ・授業中、集中力をもって積極的に参加できるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽が生み出す曲想や美しさを感じ取り、さらに自分の演奏に表現の工夫をしているか。 ・演奏上の課題に直面したときに、的確な解決方法を見いだす工夫があるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽曲から感じ取ったイメージを自分らしく表現する技能をもっているか。 ・楽譜や、楽譜に記されている音楽表記を理解し、それらが示す曲想を感じ取り、表現することができるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽のジャンル、使用楽器、演奏法を理解して聞くことができるか。 ・楽曲の背景をより深く理解し、情景を想像しながら集中して鑑賞することができるか。


7. 評価の方法

- ・勤怠状況
- ・平常点（課題・提出物・学習意欲
- ・考查等（小テスト・実技テスト・発表）

学期	月	題材名・単位名	教材	学習のねらい及び評価
1 学 期	4 ～ 7	オリエンテーション 楽しく歌おう（歌唱） ※1 郷土の音楽に触れる 三線を弾こう！ 【まとめ】	○校歌 ○琉球古典音楽 ○沖縄民謡（安里屋ユンタ） ○沖縄ポップス プリント学習 簡単な練習曲 プリント学習	・授業に対する心構えを確認し、高校生の自覚を持たせる。 ・新しい級友と楽しく歌う。正しい姿勢で発声する事を学ぶ。 ・校歌を覚え、校歌の内容と背景を深く理解しながら歌う。 ・沖縄音楽史を通して、琉球古典音楽、沖縄民謡、沖縄ポップスのそれぞれの音楽的特徴と歴史的発展を学ぶ。 ・安里屋ユンタの歴史的背景、音楽的特徴を学ぶ。 ・工工四の読み方、三線の持ち方、歌三線を学ぶ。 ・音階（日本音階、琉球音階）、拍子、リズムなどを理解する。 沖縄の音楽・三線について 【楽典のテスト・実技テスト】
2 学 期	9	鑑賞 世界の音楽 日本の民謡に触れる	「オススメの一曲」 ○アフリカの民謡 ○アジアの民謡 ○ヨーロッパの民謡 ○ソーラン節	・一人ずつ自分の好きな歌（曲）（ジャンルは問わない）を選び、それについて発表し、みんなで鑑賞し、曲について話し合う。 （発表者：発表と課題提出、その他の生徒：鑑賞ノート提出） ・世界の民謡にふれ、独自の音楽文化を理解する。 ・多様な民謡を国別にわけ、比較し、特徴をまとめる。 ・民謡の特徴や日本の心を感じ取る。
	10 ～ 12	鍵盤楽器に親しむ （器楽・鑑賞） 楽典 【まとめ】	プリント学習 ○簡単な練習曲 ○ピアノ名曲集（ショパン等） 音符やリズムについて ○プリント学習	・鍵盤楽器を弾くにあたり、基本的な演奏方法、指使い、楽譜の読み方などを学ぶ。（キーボード演習導入）ステップアップ方式で個々のレベル・習熟度に合わせてすすめていく。 ・鍵盤楽器の発展の歴史学び、また様々な鍵盤楽器の楽曲（ピアノ、オルガン、チェンバロ、アコーディオン等）を鑑賞し、種類や音色の違いを学ぶ。 ・演奏者のレベルに合わせて、片手ずつ練習し両手で合わせて弾いてみる。 ・メロディーやフレーズ感を把握して弾けるようにする。 ・楽典の基礎学習 【楽典のテスト・実技テスト】
3 学 期	1～ 3	外国語の歌を歌おう ※1 西洋音楽を鑑賞する 卒業の歌 楽典 【まとめ】 コンサートを開こう	○カロ・ミオペン ○野ばら ○オペラアリア 「だれも寝てはならぬ」 ○卒業の歌（3年選曲） プリント学習	・イタリア語とドイツ語の歌を歌い、日本語とは違う発音や歌詞、曲想に触れ、二種類の「野ばら」を音楽的表現や楽曲の違いなどを比較する。 ・歌曲と異なる曲想をもつ、イタリアオペラのアリアを鑑賞。 ・音楽と演劇が融合した「総合芸術」としてのオペラに触れる。 ・卒業式に向けて、校歌と卒業式の歌の練習に入る。 ・この一年間で練習した器楽曲、アンサンブル曲、合唱曲から曲を選び、練習し、発表する。コンサートを開く際に必要な、プログラム作成、選曲、曲順決めなどの準備過程を学ぶ。

※新型コロナ感染症対策を十分に行いながら実施する

令和3年度 シラバス 器楽 I

科目名	器楽 I	単位数	2	検 校 長 教 頭 印
教科書	プリント学習			
対象学年	3 学 年	担当教諭	長嶺 真未 	

1. 学習のねらい

・音楽の諸活動を通して生涯にわたり音楽を愛好する心情を育て、鑑賞能力を高めながら、音楽文化をより深く理解できるとともに、感性を磨き、個性豊かな表現能力を伸ばす。

2. 目標

- ・多様な音楽を鑑賞することで、音楽や音、楽器に対する興味関心を高める。
- ・楽曲の文化的・歴史的な背景を知ることで、音楽をより深く理解することができる。
- ・郷土の文化・音楽に触れることで、独自のアイデンティティを育てる。
- ・親しみのある童謡に簡単な伴奏付けができ、弾き語りができるようになる。

3. 副教材について

教科書に関連する資料や楽譜、視聴覚教材

4. 授業の内容と進め方

毎時の読譜テストで基礎力を身につける。授業では、表現活動（歌唱・器楽・創作）と鑑賞活動とを平行して進める。また、達成したことや感じたことを振り返る時間を設定する。

5. 学習する上での留意点

生徒が安心して表現できるような雰囲気づくりに努める。また、少人数の授業なので、一人一人への声かけを細かく行う。毎時間真剣に、また楽しみながら授業に取り組ませていきたい。

6. 評価観点

- ・音楽に対する興味や関心、授業に積極的に参加する姿勢を評価する。
- ・4つの観点をバランスよく有機的に評価する。

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
<ul style="list-style-type: none"> ・ジャンルを問わず、多様な音楽に興味関心が持てる。 ・アンサンブル演奏に意欲的に取り組むと共に、友人達との共演に積極的であるか。 ・授業中、集中力をもって積極的に参加できるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽が生み出す曲想や美しさを感じ取り、さらに自分の演奏に表現の工夫をしているか。 ・演奏上の課題に直面したときに、的確な解決方法を見いだす工夫があるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽曲から感じ取ったイメージを自分らしく表現する技能をもっているか。 ・楽譜や、楽譜に記されている音楽表記を理解し、それらが示す曲想を感じ取り、表現することができるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽のジャンル、使用楽器、演奏法を理解して聞くことができるか。 ・楽曲の背景をより深く理解し、情景を想像しながら集中して鑑賞することができるか。

7. 評価の方法

- ・勤怠状況
- ・平常点（課題・提出物・学習意欲
- ・考查等（小テスト・実技テスト・発表）

学期	月	題材名・単位名	教材	学習のねらい及び評価
1 学 期	4 ～ 7	オリエンテーション 楽しく歌おう（歌唱） ※1 郷土の音楽に触れる 三線を弾こう！ 【まとめ】	○校歌 ○琉球古典音楽 ○沖縄民謡（安里屋ユンタ） ○沖縄ポップス プリント学習 簡単な練習曲 プリント学習	・授業に対する心構えを確認し、高校生の自覚を持たせる。 ・新しい級友と楽しく歌う。正しい姿勢で発声する事を学ぶ。 ・校歌を覚え、校歌の内容と背景を深く理解しながら歌う。 ・沖縄音楽史を通して、琉球古典音楽、沖縄民謡、沖縄ポップスのそれぞれの音楽的特徴と歴史的発展を学ぶ。 ・安里屋ユンタの歴史的背景、音楽的特徴を学ぶ。 ・工工四の読み方、三線の持ち方、歌三線を学ぶ。 ・音階（日本音階、琉球音階）、拍子、リズムなどを理解する。 沖縄の音楽・三線について 【楽典のテスト・実技テスト】
	9	鑑賞 世界の音楽 日本の民謡に触れる	「オススメの一曲」 ○アフリカの民謡 ○アジアの民謡 ○ヨーロッパの民謡 ○ソーラン節	・一人ずつ自分の好きな歌（曲）（ジャンルは問わない）を選び、それについて発表し、みんなで鑑賞し、曲について話し合う。 （発表者：発表と課題提出、その他の生徒：鑑賞ノート提出） ・世界の民謡にふれ、独自の音楽文化を理解する。 ・多様な民謡を国別にわけ、比較し、特徴をまとめる。 ・民謡の特徴や日本の心を感じ取る。
2 学 期	10 ～ 12	鍵盤楽器に親しむ （器楽・鑑賞） 楽典 【まとめ】	プリント学習 ○簡単な練習曲 ○ピアノ名曲集（ショパン等） 音符やリズムについて ○プリント学習	・鍵盤楽器を弾くにあたり、基本的な演奏方法、指使い、楽譜の読み方などを学ぶ。（キーボード演習導入）ステップアップ方式で個々のレベル・習熟度に合わせてすすめていく。 ・鍵盤楽器の発展の歴史学び、また様々な鍵盤楽器の楽曲（ピアノ、オルガン、チェンバロ、アコーディオン等）を鑑賞し、種類や音色の違いを学ぶ。 ・演奏者のレベルに合わせて、片手ずつ練習し両手で合わせて弾いてみる。 ・メロディーやフレーズ感を把握して弾けるようにする。 ・楽典の基礎学習 【楽典のテスト・実技テスト】
	1～ 3	外国語の歌を歌おう ※1 西洋音楽を鑑賞する 卒業の歌 楽典 【まとめ】 コンサートを開こう	○カロ・ミオペン ○野ばら ○オペラアリア 「だれも寝てはならぬ」 ○卒業の歌（3年選曲） プリント学習	・イタリア語とドイツ語の歌を歌い、日本語とは違う発音や歌詞、曲想に触れ、二種類の「野ばら」を音楽的表現や楽曲の違いなどを比較する。 ・歌曲と異なる曲想をもつ、イタリアオペラのアリアを鑑賞。 ・音楽と演劇が融合した「総合芸術」としてのオペラに触れる。 ・卒業式に向けて、校歌と卒業式の歌の練習に入る。 ・この一年間で練習した器楽曲、アンサンブル曲、合唱曲から曲を選び、練習し、発表する。コンサートを開く際に必要な、プログラム作成、選曲、曲順決めなどの準備過程を学ぶ。
3 学 期	1～ 3	外国語の歌を歌おう ※1 西洋音楽を鑑賞する 卒業の歌 楽典 【まとめ】 コンサートを開こう	○カロ・ミオペン ○野ばら ○オペラアリア 「だれも寝てはならぬ」 ○卒業の歌（3年選曲） プリント学習	・イタリア語とドイツ語の歌を歌い、日本語とは違う発音や歌詞、曲想に触れ、二種類の「野ばら」を音楽的表現や楽曲の違いなどを比較する。 ・歌曲と異なる曲想をもつ、イタリアオペラのアリアを鑑賞。 ・音楽と演劇が融合した「総合芸術」としてのオペラに触れる。 ・卒業式に向けて、校歌と卒業式の歌の練習に入る。 ・この一年間で練習した器楽曲、アンサンブル曲、合唱曲から曲を選び、練習し、発表する。コンサートを開く際に必要な、プログラム作成、選曲、曲順決めなどの準備過程を学ぶ。

※新型コロナ感染症対策を十分に行いながら実施する